公益社団法人隊友船橋だより

2025年5月号　発行:千葉県隊友会　船橋支部事務局

「嗚呼海軍七勇殉之趾碑」清掃供養
6月15日（日）

恒例の「嗚呼海軍七勇殉難之趾碑」の「清掃供養」を6月15日（日）9時から11時半の間実施します（予備日:6月21日（土））。ご支援頂ける方は隊友会会員、自衛隊陸海空現役OB、一般の方問わず何方でも参加できます。お知り合いの方に呼びかけて作業のできる服装で参加して下さい。（参加費不要）

尚、参加される方は問い合わせ先へ申し込みをお願いします。

バス通りから少し離れておりますので私有車かバイク、自転車等で下記の住所に集合して下さい。

集合場所（カーナビ設定）:千葉県船橋市大穴北8-33
駐車場はありませんので他の交通の迷惑をかけないよう近くの道路左端に駐車。

集合:09:00 現地集合

服装:帽子、汗拭きタオル、軍手、長袖シャツ、長ズボン、ゴム長靴またはスニーカー等。草刈り鎌のない方は担当者の方で準備しています。

作業内容:草刈りと清掃、供養。お茶を飲んで懇談と記念撮影。

問い合わせ先:嗚呼海軍七勇殉難之跡碑慰霊顕彰担当責任者
二和・咲が丘副分会長
長内　力　携帯電話番号:090-6948-0730

私が選んだ詩の一句

「天真に任す」 良寛の詩編
全てのこだわりを捨て、流れる水のように、空の雲のように、自然の道理に身を任せようということです。
詩文
『生涯懶立身　騰騰任天真　　（生涯身を立つるに懶く、騰騰天真に任す）
（懶くとは：心が晴れやかでない。なんとなく気が進まない。）
嚢中三米升　　爐辺一束薪　　（嚢には三升の米、爐辺には一束の薪）
誰問迷悟跡　何知名利塵　（誰か問わん迷悟の跡、なんぞ知らん名利の塵）』
大意：私は生涯、身を立てて出世することなど面倒で興味もなく、ただ自然の道理に身を任せている。嚢に三升の米と少しの薪があればもうそれでよい。迷いだの悟りだのと私にはもうどうでもよく、ましてや名誉や利益などつまらないものにはかかわりあいがない・・・・・・・。
資料　禅の言葉

（オカモト）

「日航 123 便　墜落の新事実　目撃証言から真実に迫る」著者：青山透子

この書の問題は、他にもあるが「全国学校図書館協議会選定図書」に選ばれ学校の図書館で子供達が手に取って熟読できる事、日航機 123 便墜落原因が報道された内容と違う墜落原因と根拠、災害救助活動に出動した自衛官達が墜落現場の御巣鷹山の急斜面で足場の悪い状況下、昼夜問わずの救助活動が報われない等である。
自衛隊の名誉回復のため国会で真相を明確し国民に知ってもらうことが急務である。
用紙の都合で記載できない内容もあるので詳細はこの本を読んで頂きたい。
防衛大臣中谷元氏をはじめ自衛官 OB 議員や協力者はこの本の内容を国会で取り上げ自衛隊のため早期に真相究明するよう強く要望しよう。
（オカモト）